

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402093
法人名	有限会社 たすかる
事業所名	グループホーム たすかる
所在地	〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊2975番地6 (電話)0957-72-3499

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(H20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	10月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15人	常勤	4人	非常勤 11人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000~12,400 円	その他の経費(月額)	3000円・実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月 31日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	58歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島原保養院・柴田長庚堂・泉川病院・スマイル歯科
---------	-------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地にあり、ホームの庭の真ん中に八角堂を建立して、お釈迦様を入れ安らぎの場を提供し、入居者のみでなく地域の人々が参る事がある。今後御縁があった人の合同供養をしていく予定である。又、テーマを「時空の森」と題した文化祭をたすかるホールで、職員と入居者が一丸と成って地域を巻き込み、1ヶ月を通して開催し、好評であった。入居者が望む事は積極的に取り入れ、一泊2日の温泉旅行や遠方の帰省同行等、ホームの名前の「たすかる」を家族から聞きながら支援を実施している。訪問時は、職員の笑顔と入居者の穏やかな顔の表情を見ることができ、変化に富んだ楽しいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を改善の一旦として考え、前向きに取り組んでいる。介護計画書の書式変更やケア会議の充実をしているが、改善計画シートの作成はなく、計画的とは言えず、評価後は職員との話し合いに留まらず、実施期間・内容を明確にして、達成状況の評価を行う改善計画シートを作成し、計画的に実施する事が期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は一部の職員のみで話し合い、実施項目を詳細に記述している。職員全員で取り組み、項目を理解しケアの統一や日頃の実施事項へのチェックに繋ぎ、質の向上を尽力する事が期待される。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に、家族の代表・自治会長・地域包括支援センター担当者・施設長・介護主任・介護支援専門員・管理者を構成メンバーとして開催している。出席者はそれぞれの立場を担った発言をし、充実した会議であり、家族や地域とは交流の幅が広がり、成果が上がっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>現在便りの作成はなく、写真や家庭訪問や来所時に様子を伝えたり、意見や要望を尋ねている。玄関に意見箱を設置し、傾聴の体制をアピールしており、家族からは忌憚のない話しが聞けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>テーマを「時空の森」と題して文化祭を1ヶ月をかけて地域の人を巻き込んで盛況に開催する事ができた。又、ホームの中庭に八角堂を建立し、お釈迦様を飾り入居者のみでなく地域の人々も参拝に来ている。体験学習の受理・自治会の清掃活動参加・公園の清掃活動・桜見物等行き来する交流を図り、密接な関係を確立している。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「老いても障害があっても地域の中で生き生きと安心して生活できるサービスを目指す」として、住み慣れた地域で安らぎの場を設け、安心して過ごす為の支援を実施している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年齢や置かれている状況に係らず、自分の親のお世話をする様に差をなくし、人の命の大切さを念頭に置いて、理念の実現に向け、日々、研鑽している。又、朝礼や勉強会で復唱や掲示をして、共有を図りながら日々のケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭(「時空の森」のテーマで1ヶ月開催)やホーム内の八角堂への参拝等で地域と交流をしており、ホームの理解と協力を得ながら、互いの密接な関係が確立している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員で話し合い、実施事項を詳細に記述している。又、前回の評価結果を職員に見せて話しているが、改善計画シートの作成はなく、改善に向けた取り組みはあるが、計画的な実施には至っていない。		評価を改善の一旦として考え、前向きに取り組んでいるが、職員全員が評価項目を理解し、質の向上に繋がるよう全員で取り組み、改善計画は話し合いに留まらず、実施期間・内容を明確にして評価を行う改善計画シートを作成し、計画的に実施する事が期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に、家族の代表・自治会長・地域包括支援センター担当者・施設長・介護主任・介護支援専門員・管理者を構成メンバーとして開催している。出席者はそれぞれの立場を担った発言をし、充実した会議であり、家族や地域との交流の幅が広がり、成果が上がっている。		

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は島原広域圏組合主催のグループホームケア研究会の世話役をしており情報交換を行い、市町村とは報・連・相の関係が確立している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書を持ち家庭訪問をする事があり、同時にホームで撮った写真を渡している。又、状態の変化や必要に応じて電話により家族に伝えており、現時点では便りの作成はしていない。金銭の預かりはなく、出納帳の記述は行っていない。		家庭訪問により個別に状況を伝えているが、遠方の家族や同じ情報を共有する事を考慮した、ホーム便り(毎月が無理であれば、季節毎でも)を発行し、行事・出来事・介護に関する情報等を載せ、家族と共にホームの向上を図ることが期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族の来所時や家庭訪問時に個別に話している。相談苦情体制を明確にして、傾聴に心がけ家族からは忌憚のない話しが聞けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は心のケアが出来る人を求め、現在では離職はあまりない。関連法人内での異動は時にはあるが、入居者に自己紹介をする事により、大きなダメージには至っていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップには尽力しており、内部研修として、毎月職員会議と勉強会を同時に実施し、テーマを決め学んでいる。外部研修には出来るだけ参加して情報の共有や、関連法人で「円星クラブ」を立ち上げ、学習の場を設け、向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域圏のケア研究会に参加したり、近くのグループホームとは密接に交流を行い、昨年は文化祭に他のホームからの見学が多く、情報の交換により互いの優れている点を更に向上させている。		

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者は関連のサービス機関や病院からが多く、病院に出向き情報の収集やホームの事を伝え、ホーム内見学・体験入居をして、納得した上での入居に至っている。職員には入居前に注意事項を伝え、馴染みの関係に向け全員で取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は人生の先輩であり、職員が学ぶ事は多々あり、言葉遣い・調理・経験から培われた生活の知恵等、沢山に伝授され、生活に活かしながらか楽しく暮らしている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本情報や日々の会話で入居者の状況把握に努め、本人主体の生活を「差のない介護」を目標に、職員全員が共有して検討しながら支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>今年度より計画書の書式を充実し、本人及び家族の主に沿って、ケース会議で職員の気づきを明確にし、サービス内容を詳細に実践可能なアイデア溢れる計画を作成している。作成後は家族に見せ、同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況を個人記録に日々詳細に記述し、3ヶ月を通したモニタリング表で関連して達成状況を把握し、現状を理解して次の計画の見直しを実施している。又、状態変化時も同様である。</p>		

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が安心して生活を保持する為に、医療連携・病院受診・関連の事業との交流・温泉旅行(1泊で職員同行による旅館への宿泊)・遠方への帰省介助・家族の宿泊・入居家族の介助に伴う食事提供等、状況を判断して柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医や協力医療機関の確保や看護師を職員に配置し、医療機関とは密接に情報交換を実施し、気軽に相談・指示が仰げる関係が確立している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算に伴い、看取りに関する指針を明確にし、ホームとしては最後の見極めは家族にお願いする方針である。しかし、最後の見極めまでの職員のケアを考慮した、勉強会の実施はなく、全員での方針の共有は不十分である。		入居者の高齢化を考慮すると、看取りは今後益々増加し、職員のケア面や精神面は大きなウエイトであり、かわりに関する学習では「心」を踏まえての研修を実施し、全員で方針を共有する事が期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に配慮し、運営推進会議等はインシタルで伝え、記録物の放置はしていない。声掛けや介助はプライバシーに配慮して行っている。調査日の見学は許可を優先し、居室はノックをするか入居者に声掛けをしながらの案内で、尊厳に対する取り組みが窺えた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、固執することなく本人のペースの尊重に心がけ、タバコの好きな人には、換気や本数に注意を払い、場所を決めて支援しており、希望に沿う支援を実践している。		

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を出来る人は職員と一緒にしている。同じ食事ではあるが入居者の状態や職員数と一緒に出来ない場合がある。ホームの畑の作物が食卓を飾ることがある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週三回で、入居者の楽しみの一環になっており、身体状況に応じて清拭に変更する事もある。又、皆が平等の意味で、順番を変えたり工夫をしながら清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の心の支えとして八角堂を建立し、参拝している。庭の手入れ・洗濯物干し・たたみ・読書・金銭を自己管理・買い物・温泉旅行等、できる事は積極的に支援を行い、生き甲斐に繋がる取り組みをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭での花見・お釈迦様にお参り・外のベンチで外気浴・買い物・ドライブ・温泉旅行・里帰り等、可能な限り家庭生活と変わらず、外出を特別の物ではなく、生活の一部として支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在の入居者は落ち着いており、帰宅願望や徘徊者はいない。見守りにより施錠は、玄関はもとより居室も行ってない。地域の人とは密接にかかわり、近くの商店には一人で買い物に行くことがあり、地域の人に見守られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した火災・避難訓練を消防署立会いで実施している。休みの職員は後日訓練を実施し、職員全員が行っている。又、地震や水害に伴う備蓄に関してはまだ取り組んでいない。		今後、自然災害(地震・風水害等)を視野に入れた訓練やマニュアルを作成、それに伴う備蓄(当座の食料・水・携帯コンロ等)や持ち出し品のチェックを行い、非常時に向けた取り組みが期待される。

グループホーム たすかる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスも良く、体重や状態に考慮しながら、キザミ・トロミ・水分をゼリーにして提供している。水分摂取は必要時に記録に残し、不足ないように注意を払って支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは住宅街の一画にあり、後ろは林で閑静である。日当りは場所によって差があるところは、照明でカバーしている。訪問時は嫌な臭いはなく、リビング(広い座敷がある)や庭等ベンチや椅子を配置し、居場所の確保がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の必要な品々を持ち込み、鏡・テレビ・コンテナ・本棚・書籍・小物等、それぞれ変化のある居室作りができており、入居者の寛げる場所に成っており、穏やかに過ごす姿が見受けられた。		